

第3章 別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくり基本構想

1. 基本構想

【基本理念】

■第五次新居浜市長期総合計画 平成23年度～平成32年度

「あかがねのまち、笑顔輝くー 産業・環境共生都市」

□経済活力

- 観光・物産の振興
全国に誇れる観光地をつくります
- ・近代化産業遺産を活用した観光の振興
- ・ホスピタリティ*の向上と人材育成

□教育文化

- 地域づくりの推進
住民主体の地域づくりを推進します
- ・郷土愛を育むための活動の推進
- 芸術文化の振興
芸術文化の香りを未来に伝えます
- ・芸術文化施設の整備・充実
- ・文化財保護と活用
- 近代化産業遺産の保存・活用の充実
生きた博物館都市を目指します
- ・別子銅山の近代化に携わった人々に学び、伝承・発言を促進
- ・別子銅山近代化産業遺産のネットワークの促進
- ・別子銅山近代化産業遺産の保存・整備の推進
- ・あかがね基金の育成

□自立協働

- 多様な主体による協働の推進
多様な主体が、異なる特性を補完しあい協働を推進します
- ・推進体制及び制度の整備
- ・人材の育成と自治体経営力の向上
- ・中間組織への支援と連携強化
- ・ボランティアの推進
- ・NPO活動への支援

【基本理念】

■別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくり総合計画

鉱物資源 から 協働のまちづくり資源 へ

「別子銅山の産業・環境・生活文化の記憶を継承し、
にはまへの郷土心を育むあかがねの協働のまちづくり」

■都市計画マスタープラン*

□将来都市像

「～21世紀に光り輝く生活・文化
・産業創造都市 新居浜～」

- ・都市中心軸と連携
- ・歴史文化軸と連携
- ・新都市拠点と連携
- ・都市型リゾート拠点と連携

■新市建設計画 平成15年度～平成24年度

□まちづくりの方向

- ・歴史・文化に包まれた賑わいと交流のまちづくり
- ・安心して、いきいきと暮らせる福祉と健康のまちづくり
- ・文化と市民活動とが調和した集いと学習のまちづくり
- ・緑と水とをテーマにした循環と共生のまちづくり

□産業の振興 「近代化産業遺産の活用」

市民の共通のアイデンティティ*である別子銅山産業遺産を保存・活用することにより、地域の活性化に繋げる。そのため、近代化産業遺産の活用方針を策定し、別子山から口屋跡までの中心軸を設定し、関連施設のネットワーク化を図るとともに、拠点施設の保存・整備を行

■ まちづくり基本構想

□「観光交流まちづくり」

近代化産業遺産ヘリテージツーリズムの創造と推進による地域ブランド力向上と交流人口増加を図り、地域と連携してにぎわいのある観光交流まちづくりを目指します。

○ヘリテージツーリズムの創造と推進

近代化産業遺産の多面的な魅力を地域から発信する着地型観光*に向けて、個性と魅力を兼ね備えたヘリテージツーリズムを創造し観光交流まちづくりの活性化を目指します。

○観光交流まちづくりに向けた推進体制づくりと別子銅山インフォメーション*

近代化産業遺産を活かしたヘリテージツーリズムの創造と推進に向けて、関係団体と連携し推進する体制づくりを進め、また、観光拠点となる施設等に別子銅山のインフォメーション機能を設置し情報発信に努め、観光交流まちづくりの活性化を目指します。

○フィルムコミッション* ロケ地誘致

近代化産業遺産の持つブランド力向上に向け、映画等のロケ地誘致を図るためフィルムコミッションとの連携を検討する等、知名度向上を図り交流人口の増加を目指します。

□「知の創造学びの場」

近代化産業遺産の多面性は、知の創造を引き出し、「過去」に学び、「今」に郷土の誇りを持ち、「未来」へ創造を繋ぐ郷土学の柱となり、誰にでも学べる場づくりを目指します。

○ミュージアムリンク*

近代化産業遺産の学習と体験を織り込んだ博物館等は移動しやすい都市部の環境にあることから、展示内容等プログラムと情報発信等の連携を図って都市型観光*による地域交流の活性化を目指します。

○学校教育や生涯学習での近代化産業遺産の学び

子どもから高齢者まで近代化産業遺産を学ぶ仕組みとして、学校教育では総合的な学習時間を活用する等、生涯学習では講座の運営を地域連携で進めて、近代化産業遺産への理解と関心層の裾野を広げていきます。

○子ども観光大使

近代化産業遺産の学びに取組む創造性豊かな子どもたちを応援し、地域で取組む制度づくりを目指します。

□「地域コミュニティ再生」

近代化産業遺産が地域社会に見せる多面性と地域と多様な関係性を活かして、新居浜の貴重な地域資源として地域コミュニティ再生による地域活性化を目指します。

○別子銅山の体験を語る記憶の継承から未来への記録伝承へ

別子銅山閉山後 30 年以上経過しており様々な体験者等から記録保存を進めるため、三世代交流を図りながら地域でのコミュニティ形成づくりを目指します。

また、生涯学習講座等高齢化社会に向けた地域コミュニティ形成も目指します。

○市民ボランティア*協働のまちづくり

近代化産業遺産の保存及び活用に向けて近代化産業遺産が地域コミュニティ再生の場となるよう地域協働のまちづくりを進めていきます。

○地域市民の生活ニーズへ機能転換活用

近代化産業遺産を地域市民の憩いや交流の場、レクリエーション活動、公園等の用途に本来の機能から転換を図る等地域市民の生活ニーズに応じた地域コミュニティ形成の場づくりを目指します。

□「都市計画との連携」

近代化産業遺産を活かしたまちづくり活動の基盤づくりとして、景観、歴史文化を盛り込んだ都市計画制度への活用を図り、魅力ある都市の基盤づくりを目指します。

○産業都市再生

近代化産業遺産は「今」のものづくり産業の発展を現し、「将来」のものづくり産業をつくっていく地域資源です。この資源を地域活性化に活用を図ることで今後の時代に即した産業都市再生に寄与する近代化産業遺産を活かしたまちづくりを目指します。

○都市計画と近代化産業遺産を活かしたまちづくり計画の連携

本まちづくり計画は、都市基盤整備や都市計画に関連するものとなっています。相互に連携したまちづくりを進めていきます。

○都市計画フレームへの組み込み

本まちづくり計画と都市計画との連携では、近代化産業遺産を活かした風景景観づくりやその歴史文化を都市整備に活用する視点で、景観法*と歴史まちづくり法*との連携を図るため都市計画フレームに組み込み、まちづくりを進めていきます。

2. 基本構想ゾーニング

■ ゾーニング区分要素

□ 星越・惣開ゾーン

【区分要素】

生活圏及び機能空間：惣開公民館コミュニティ、(西中一惣開小、若宮小) 校区。
地域特性：大型小売店舗等商業等利便施設の集中。臨海部工場と近接。
駅前総合文化施設、登り道・昭和通り商店街に近接。

【ゾーン内地区】星越(山田社宅街等)惣開(工場群)口屋

【ゾーンの特長】都市エリア観光、産業観光の適地。

□ 山根・立川ゾーン

【区分要素】

生活圏及び機能空間：角野公民館コミュニティ、(角野中一角野小) 校区、新居浜南高校。
地域特性：端出場・東平・旧別子観光レクリエーションへの入り口に位置。
旧山根製錬所(えんとつ山)を拠点とした地域コミュニティ形成エリア。
喜光地商店街に近接。

【ゾーン内地区】山根(旧山根製錬所等)立川(立川中宿)上原(広瀬歴史記念館)喜光地

【ゾーンの特長】自然環境を背景とした都市エリア観光、産業遺産学習の適地。

□ 端出場・東平ゾーン

【区分要素】

生活圏及び機能空間：第三セクター*方式 株式会社マイントピア別子管理。
地域特性：マイントピア別子と自然体験。

【ゾーン内地区】端出場(マイントピア別子端出場ゾーン)東平(マイントピア別子東平ゾーン)

【ゾーンの特長】自然環境を活かした観光レクリエーションの適地。

□ 旧別子・別子山ゾーン

【区分要素】

生活圏及び機能空間：別子山公民館コミュニティ、(別子中一別子小) 校区
地域特性：別子山支所。別子山ふるさと館他関連施設。

【ゾーン内地区】旧別子(日浦登山口・小足谷・高橋・東延・木方・山方・目出度町)
別子山(余慶・弟地・筏津・積善)

【ゾーンの特長】大自然を背景に四季折々の自然体験適地。

■ 基本構想ゾーニングコンセプト

図 - <基本構想>ゾーニング図 参照

□ 星越・惣開ゾーン

「工都新居浜の都市形成とものづくり産業観光の産業創造空間」

- ・ 公民館と連携した新たな協働のまちづくり拠点を位置づけ。
- ・ 近代化産業遺産と都市計画（社宅街、新居浜築港、道路、下部鉄道等）の学びと体験、ものづくり産業観光の拠点を位置づけ。
- ・ NPO、公民館、市民、団体、コミュニティビジネス*、企業等多様な参画によるコミュニティ形成。
- ・ 星越地区周辺は都市空間形成と魅力ある都市環境の創造を構築するために産業遺産を景観資源とした景観づくり。

□ 山根・立川ゾーン

「新居浜のシンボルえんとつ山に継承される作務の精神と憩いの空間」

- ・ えんとつ山を作務*の精神を継承する協働のまちづくり拠点として位置づけ。
- ・ えんとつ山、山根公園、広瀬公園等の憩いの場と連携して近代化産業遺産の保存活用。
- ・ 広瀬歴史記念館、別子銅山記念館の学びと体験、他ゾーン施設とのミュージアムリンク。
- ・ 立川中宿、別子往還道等の地域の歴史文化を掘り起こし、地域コミュニティ活動と連携した近代化産業遺産の保存活用。

□ 端出場・東平ゾーン

「近代化産業遺産ミュージアム近代化ロマンの体感空間」

- ・ マイントピア別子を近代化産業遺産観光拠点として位置づけ。
- ・ 近代化ロマンの体感、天空の都市東平の近代化産業遺産の保存活用。
- ・ 別子銅山学習と自然体験の拠点を位置づけ。
- ・ ボランティアガイド養成と連携した近代化産業遺産の観光活用。

□ 旧別子・別子山ゾーン

「明治近代化の象徴 近代化産業の源泉と環境回復の体感空間」

- ・ サステイナブル（持続可能）な環境都市を体感できる空間形成の保全。
- ・ 山歩き、散策等大自然体験と近代化の源、鉱物資源ジオミュージアムの体験。
- ・ 都市部から1時間の近距離で移動できる近代化産業遺産の活用拠点。

基本構想ゾーニング図
A 3 図面挿入

3. 基本構想まちづくり方針

図 - <基本構想>まちづくり方針図 参照

■ 近代化産業遺産を活かしたまちづくり 基本構想「軸線」

□ 別子往還道コンセプト

「観光・知の創造・市民協働のまちづくり」発展軸として位置づけ、
新居浜市都市づくり戦略へ向けた「街道観光」づくり

○街道観光づくり

- ・人の交流とにぎわいづくりは、別子銅山開坑以来、都市形成の変遷の中で、人と物の交流を支えてきた銅（あかがね）の道が基盤となり地域経済を形成しました。銅（あかがね）の道は地域生活との関連性が強いものとなっています。
- ・今後のまちづくりには地域形成に関わりの深い歴史文化資源の要素を活用し、特に観光交流にはすぐに取り組めるまちづくり活動として、街道観光づくりを推進します。
- ・街道観光は「人の移動」「往来での交流」を指し、「歩く」ことで地域との交流が生まれます。街道の景観形成、街道が結ぶ近代化産業遺産等の歴史文化資源や諸施設の整備保全を進め、訪れる人と地域との観光交流の促進を図ります。

○街道観光資源

- ・景観資源：街道からの景観、まち並み景観。（石積や土壁等家並み）
- ・無形文化資源：銅の運搬、地名の由来、祭等民俗文化。
- ・有形文化資源：文化財、史跡、常夜灯、石碑、句碑。

○ストーリー性のあるヘリテージツーリズムの創造

- ・仲持、鉱山鉄道、牛車道等それぞれの持つストーリー性を活用。
- ・食、教育、商業等様々な分野とのまちづくり連携が可能。

○様々な道の複合によるまちづくりネットワーク軸

- ・登り道、銅（あかがね）の道、中筋街道、下部鉄道跡 → 歴史文化の道

○星越・惣開と山根・立川拠点間を結ぶ都市部ネットワーク軸

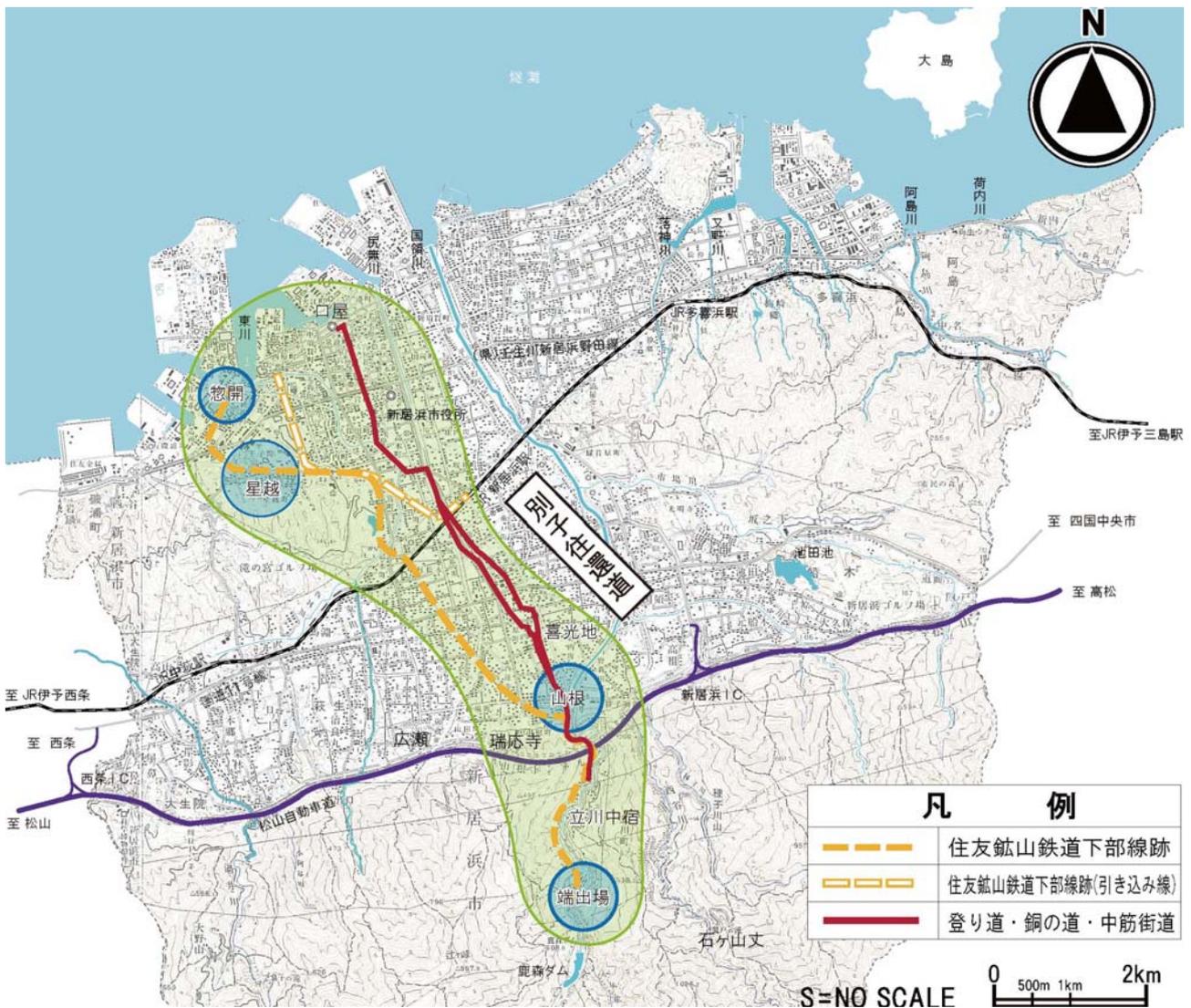
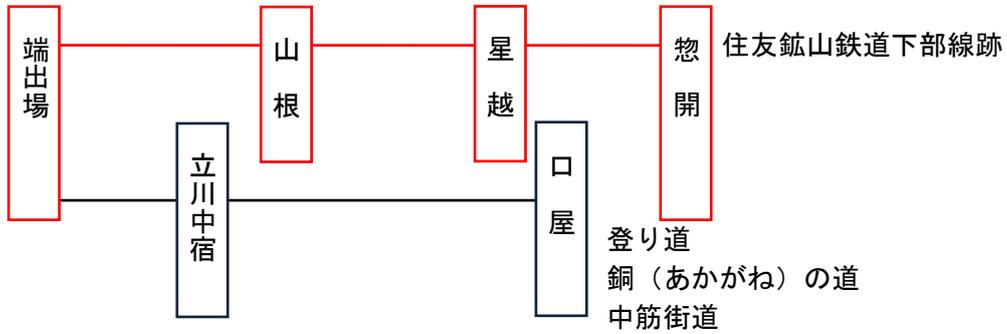
- ・市街地観光周遊と交流のネットワーク化。
- ・生涯学習、学校教育に資する近代化産業遺産のネットワーク化。

○重要文化財*旧広瀬家住宅と複数の登録有形文化財*を結び、さらに星越地区山田社宅を結ぶ近代化産業遺産と文化財ネットワーク化による都市計画フレームへの組み込み

- ・歴史まちづくり法、景観法への活用。

別子往還道の位置と範囲

- ・別子往還道の範囲は、登り道・銅（あかがね）の道・中筋街道と住友鉱山鉄道下部線跡とします。ただし、端出場～山根間は立ち入ることができません。



図一 別子往還道位置図

■ 観光交流まちづくり

□ヘリテージツーリズムの創造と推進

○別子往還道の街道観光づくり

市街地に位置する近代化産業遺産の各拠点ゾーンを結び周遊性を高める観光交流の基盤となる別子往還道の街道観光づくりを推進します。

○ヘリテージツーリズムのイメージ

- ・近代化産業遺産ストーリーツアーコースの設定と広報宣伝。
- ・文化財巡り、健康ウォーク、ミュージアムリンク、ものづくり産業観光等。
- ・JR新居浜駅を中心に市街地拠点間サイクリング周遊ツアー。
- ・旧別子・別子山の自然散策と産業遺産巡りのエコツアー。
- ・登り道商店街のイベント等と連携したイベント型観光。

□ヘリテージツーリズムの創造人材の育成と推進体制の構築

○創造人材の育成

着地型観光は地域の方がボランティアガイド等役割を持ちながら、地域の人々のライフスタイルに取込むことが持続的な活動となり、体験、交流、学習の要素に顧客満足度を高める活動が望まれます。近代化産業遺産の文化的な観光交流に加えて地域資源を分析し工夫を加える人材育成に努めると共に主体的な活動者や団体を育てていきます。

○主な取組みイメージ

- ・語り部の発掘、ボランティアガイド育成と増強。
- ・ホテル業や旅行代理店等民間事業者と連携できるNPO等の育成。
- ・ツアーマネジメント*人材の育成。
- ・関係機関と連携しマーケティングと観光商品開発と推進体制の構築。

□近代化産業遺産とものづくり産業観光の推進による地域ブランド力向上

○ものづくり産業観光

別子銅山から派生した産業と技術を体験できる産業観光と工都新居浜都市形成の変遷を学ぶ近代化産業遺産の観光を推進します。

□別子銅山のインフォメーション ホスピタリティあふれるおもてなし

○主な取組みイメージ

- ・人が集まる拠点に近代化産業遺産巡りの情報発信、案内施設、誘導サインの充実。
- ・駅前総合文化施設にインフォメーション機能の導入。
- ・多言語化、ユニバーサルデザイン*による誰にでも伝わる情報発信。
- ・施設の利用、展示内容、イベント等総合的な情報発信。

□フィルムコミッション ロケ地誘致

○ロケ地誘致

フィルムコミッション団体との連携を図り映画等のロケ地誘致活動に取り組みます。

■ 知の創造学びの場

□ミュージアムリンク 都市型観光の推進の核となる知の創造体験

○主な取組みイメージ

- ・博物館、資料館、図書館等の施設利用と展示内容等のネットワークを強化する。
- ・スタンプラリーや総合チケット（有料施設のみ）等。
- ・他地域のミュージアムと連携し共通鑑賞券、スタンプラリー、賞品提供等。
- ・施設の利用、展示内容、イベント等総合的な情報発信。

○市街地エリアでの周遊

- ・拠点施設：広瀬歴史記念館、別子銅山記念館、愛媛県総合科学博物館
- ・補完施設：住友化学歴史資料館、別子銅山記念図書館
- ・新規（予定）施設：総合文化施設、山田社宅

○端出場・東平エリア

- ・拠点施設：マイントピア別子（端出場）、東平歴史資料館

○旧別子・別子山エリア

- ・拠点施設：別子山ふるさと館
- ・補完施設：フォレストアハウス

□学校教育 総合的な学習の時間に別子銅山学習、郷土心の醸成

○主な取組みイメージ

- ・小学校及び中学校での総合的な学習の時間等に学習を導入。
- ・副読本の活用及び教材等プログラムづくり。
- ・地域と連携した近代化産業遺産の学びづくり。

□子ども観光大使制度の活用と取り組み

○主な取組みイメージ

- ・近代化産業遺産の学びに取組んだ子どもたちが地域の魅力を伝える仕組みづくり。
- ・近代化産業遺産への興味関心、理解層の裾野を広げる仕組みづくり。

□生涯学習の講座

○主な取組みイメージ

- ・別子銅山体験者との交流、産業遺産巡り、体験の場づくり。
- ・身近な地域を再考するきっかけとして、誰にでも学べる場づくり。
- ・別子銅山体験者の経験を繋ぐ講師の育成。

■ 地域コミュニティ再生

□別子銅山の記憶の継承から未来への記録伝承へ三世代交流による地域の絆づくり

○主な取組みイメージ

- ・地域コミュニティを形成し別子銅山の体験者からオーラルヒストリー*の記録保存。
- ・老若男女の三世代交流を図る、別子銅山の体験者等から昔を語る会の推進。

□幅広い市民意識の調査・分析を実施することにより、「別子銅山近代化産業遺産を活かしたまちづくり」への理解促進のための方策を検討

□近代化産業遺産の保存活用に市民ボランティアによる協働のまちづくりを推進

□高齢化社会における市民生活ニーズに近代化産業遺産の機能転換活用を図り新たなコミュニティの場づくり

□生涯学習の講座

■ 都市計画との連携

□産業都市再生

○主な取組みイメージ

- ・近代化産業遺産のシンボリック*な都市景観形成。
- ・経済特区*や電力特区*を導入した産業都市再生の推進。
- ・国内初のサステナブル（持続可能）な産業・環境共生都市づくりを目指して、産業都市再生を推進します。
（ドイツのルール工業地帯（エムシャー川流域）では日本と同様に人口減少と産業衰退に直面し市民やNPOとの連携を図った120のプロジェクトを展開した都市再生事業モデルがあります。）

□都市計画と近代化産業遺産を活かしたまちづくりの連携

○主な取組みイメージ

- ・都市計画のハードとまちづくりのソフトが連携。
- ・都市計画との連携により近代化産業遺産拠点及び軸の整備。

□都市計画フレームへの組み込み（歴史まちづくり法、景観法など）

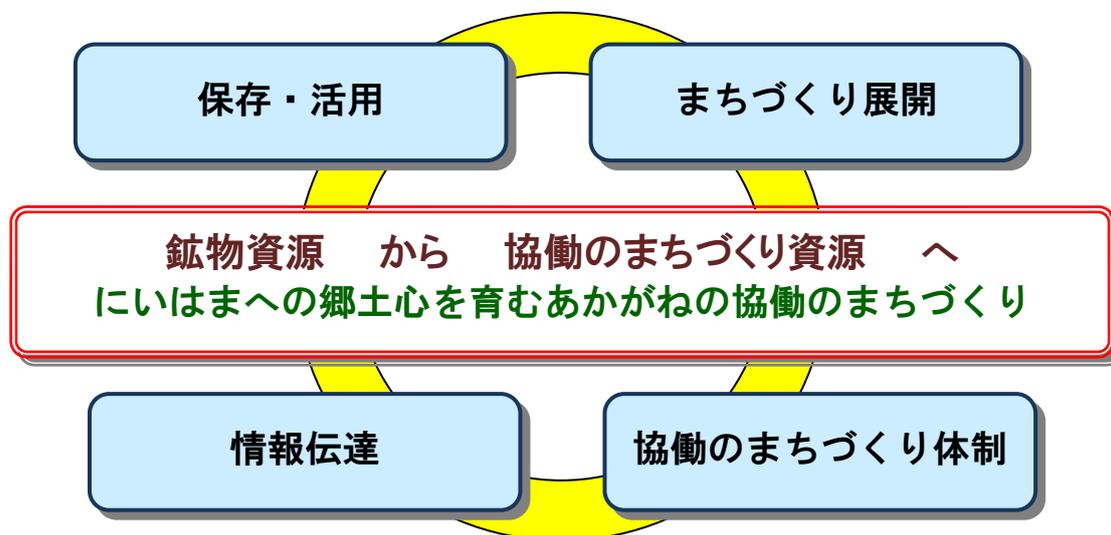
○主な取組みイメージ

- ・まち並み景観保存、文化財の景観保存、都市景観づくりへの活用。（景観法）
- ・都市生活のアメニティ向上を図る近代化産業遺産の保存活用促進。
- ・歴史文化を活かした都市計画の立案。（歴史まちづくり法）
- ・別子往還道の街道観光づくりとまち並み景観づくり。

基本構想まちづくり方針図
A 3 図面挿入

4. 協働のまちづくり方策

近代化産業遺産活用まちづくり方策



■ 保存・活用の方策

□ 目標

- ・ 保存活動や活用継続活動への活動資金の融通を確保。
- ・ 保存の技術的ノウハウの習得。
- ・ 活用方策の意義や行動を明確化。

□ 方策

- ・ あかがね基金の活用。
- ・ 出身著名人への協力要請。
- ・ コミュニティービジネス、近代化産業遺産を活用した物販。
- ・ 国の事業制度活用。
- ・ 登録有形文化財の活用。
- ・ まちづくり交付金、歴史まちづくり法等の制度活用。
- ・ まちなみの計画的規制誘導（景観法）等の活用。
- ・ 景観条例、建築協定*、地区計画制度*の活用。

■ 情報伝達の方策

□ 目標

- ・別子銅山の歴史的建造物の存在意義や価値を住民へ理解促進。
- ・地域住民へ別子銅山の歴史的建造物を活かす取り組みの理解促進。
- ・地域住民へ歴史的建造物を含めた歴史・文化の理解促進。

□ 方策

- ・イベントの実施。
- ・地域の声の把握。(アンケート調査等)
- ・ワークショップ*等の実施。
- ・近代化産業遺産をまちづくりに活かしている先進地の視察。
- ・他地区や先進地との人的交流の実施。
- ・歴史・文化の重要性を再認識するためのまち歩きの実施。
- ・重要な建造物に解説を加えた案内板の設置(追加)を充実。
- ・語り部の活用。
- ・小中高等学校の体験学習。
- ・広報PRの拡大。(ホームページ等の活用促進)
- ・マスコミ、広報紙の活用促進。
- ・講演会の実施。
- ・シンポジウム*、パネルディスカッション*の開催。
- ・観光客とのコミュニケーション機会の創出。
- ・もてなす意識の醸成(ホスピタリティ)とボランティアガイドの活用

■ まちづくり展開の方策

□ 目標

- ・計画的な位置づけを確立。
- ・まち全体に展開できる普遍的な考えを持つての取組み。
- ・特定の層だけでなく、多様な層の市民が参加しやすい展開。

□ 方策

- ・点から面へのまちづくりの取組み。
- ・都市計画マスタープランなどへの位置づけ。
- ・近代化産業遺産まちづくり宣言、近代化産業遺産まちづくり条例の制定。
- ・他市町村との連携。
- ・広域的な観光戦略の検討。
- ・ミュージアムリンク等近代化産業遺産をネットワークした観光資源化。
- ・近代化産業遺産の活用イベントによる交流人口確保。
- ・教育機関との連携。(小中学校、高等学校、大学等)
- ・経済団体との連携。(ライオンズクラブ*、商工会議所等)

■ 協働まちづくり体制づくりの方策

□ 目標

- ・母体となる推進体制づくりを確立。

□ 方策

- ・広がりを考慮したまちづくりメンバーの公募。
- ・既存の活動団体や会を幅広く活用。
- ・地域の活動メンバーのリストアップ。
- ・近代化産業遺産活用をコーディネート*できる人材の育成。
- ・官民協働の協議会の設立。(保全・活用方策の検討)
- ・NPOなど維持管理主体の明確化。
- ・食等の他分野をテーマとした活動と連携。
- ・協働体制の底上げ。
- ・地区活動家の登用。
- ・外部人材の視点を活用。
- ・地域資源を組み合わせたツアーの企画。